

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

大阪府 熊取町

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>2</sup> 当たり家庭料金(円)
-	67.16	82.40	88.32	2,530

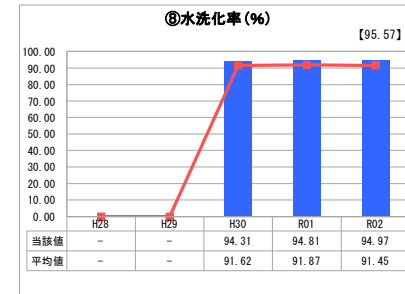
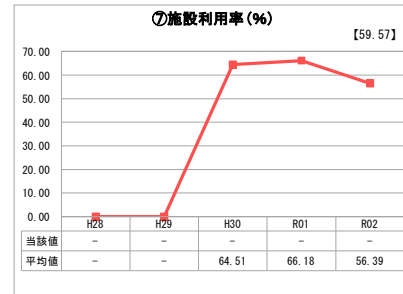
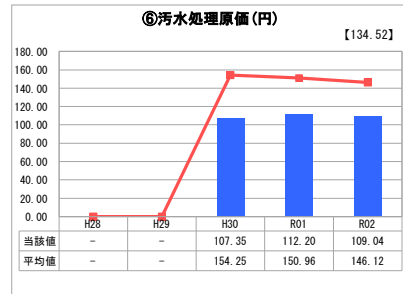
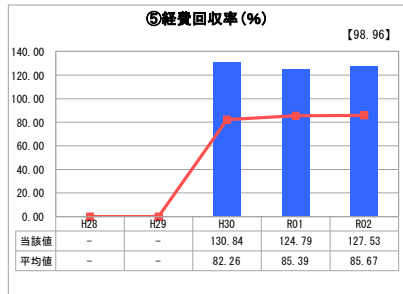
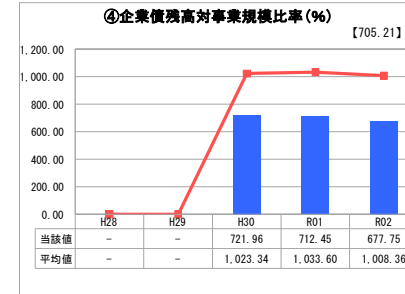
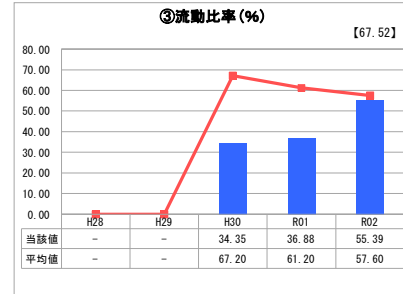
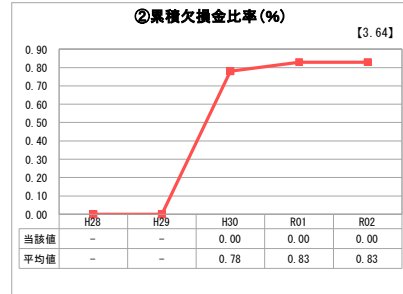
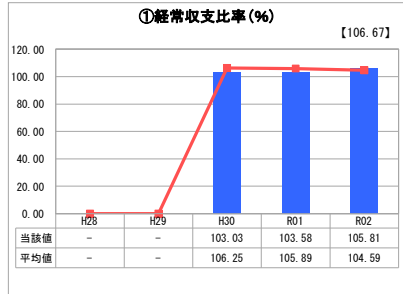
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
43,407	17.24	2,517.81
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
35,662	5.98	5,963.55

**グラフ凡例**

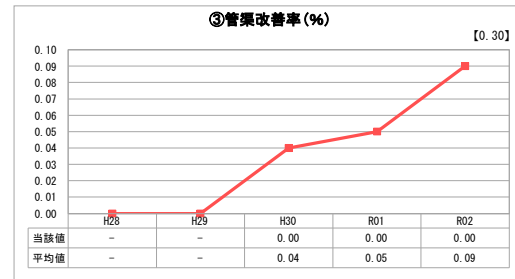
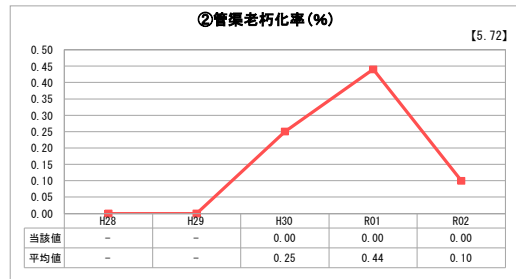
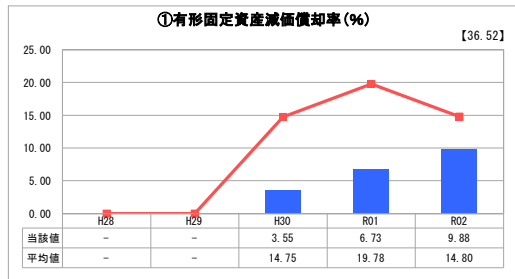
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、令和2年度は、下水道使用料が大口利用者の増加に加えコロナウイルスの感染拡大防止に伴い在宅時間が増加した影響などにより、増加したと考えられるものの、令和3年3月策定の下水道ビジョン（経営戦略）では、今後、厳しい経営状況が続くことが想定され、引き続き健全経営への取り組みが必要です。

② 累積欠損金は発生しておりません。

③ R2年度は、流域下水道事業市町村負担分に多額の返還金が発生し、未収金処理をおこなったため、流動比率が増加しました。

④ 企業債残高は近年の企業債償還額が投資（起債）額を上回り残高が減少しています。整備計画に基づき、重要な財源である企業債借入額について目標計画額を上限とし効率的な投資を継続します。

⑤ 経費回収率は類似団体平均値より高く⑥ 汚水処理単価は類似団体平均値に比べ低い水準となります。本町においては、受贈財産分の長期前受金戻入が多いことに加え、一般会計からの公費負担分も多いため、汚水処理単価が低く、それにより経費回収率が高い数値となっております。

⑦ 本町においては、単独の終末処理場がないため「-」と表示しています。

⑧ 水洗化率は住民の下水道への理解や意識が高いこともあり高い水準となっております。今後もこの状況を維持すべく、改造費用に必要な助成金や水洗化PRを継続します。

### 2. 老朽化の状況について

① 類似団体平均値に比べ低い数値となっておりますが、これは公営企業会計を導入し3年目であることから減価償却累計額を3年分しか計上していないためです。

② 現在、耐用年数が50年を経過する管渠については、民間開発業者から譲渡された雨水管渠が一部存在しますが、管渠老朽化率には反映されていません。これらの管渠について、今後数値化していきます。

③ 点検調査計画に基づき令和3年度より、管渠調査を実施していきます。

## 全体総括

今年度においても、類似団体平均値との比較においては、概ね良好な事業運営ができていたことが確認できましたが、現金の確保については一時借入金で対応するなど非常に苦慮しています。

今後も整備が必要な区域が多く長い年月と多くの投資が必要であることに加え、民間開発業者から無償譲渡された施設の中で法定耐用年数を超えるものが存在することから、維持管理に必要な費用も増加することは明らかであります。

令和3年3月に策定した下水道ビジョン（経営戦略）では、厳しい経営状況が続くことが確認できたため、持続可能で健全な運営を図るため、下水道使用料の見直しを検討するとともに、引き続き計画的で効率的な下水道整備に加え適切な維持管理と長寿命化に着手してまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。